RUBeC 演習に参加して

井手上　　翔
Kakeru IDEUE
情報メディア学専攻修士課程　1 年

1. はじめに

2019 年 8 月 17 日から 9 月 2 日までの期間，アメリカ合衆国カリフォルニア州にある Ryukoku University Barkeley Center で行われた「RUBeC 演習Ⅰ」に参加した．カリフォルニア州バークレー市にある Jodo Shinshu Center にて，約 2 週間にわたって英語のテクニカルライティングとプレゼンテーションについて学習した．また，企業訪問と大学訪問を行った．企業訪問では Keysight Technologies Company，大学訪問では龍谷大学の協定校であるカリフォルニア大学デービス校（UC Davis）に訪問した．今回は，授業内容について報告する．

2. 参加目的

RUBeC 演習に参加した理由は，修士課程の目標の一つに国際学会での発表があるからだ．そのために学会に提出する英語論文の執筆や英語でのプレゼンテーションを行えるようにするために参加した．また，アメリカの文化や社会，学生と直に触れ合うことで日本との違いを感じ，自分自身の視野を広げたいと思い参加した．

3. 講義内容

RUBeC 演習の講義内容は，午前はテクニカルライティングで，午後はプレゼンテーションになっている．そして講義が終わった後に，Teaching Assistant 付きで講義の課題に取り組んだ．講義はすべて英語で行われる．

3.1　テクニカルライティング

テクニカルライティングの講義では，冠詞 a，an，the や適切な動詞の形，学術的な接続詞の使い方，段落ごとの役割，単数形や複数形，複数の文を 1 つにする方法について学んだ．その学んだことを基に事前に作成した自身の研究の要旨を正しい文法，表現方法にブラッシュアップしていった．英語論文を書く上での文法的な基礎知識やアカデミックな表現を身に着けることが出来た．

3.2　プレゼンテーション

プレゼンテーションの授業では，発音や単語の正しいアクセント，文中での区切り方，強調，ジェスチャーなどプレゼンテーションで必要なことを学んだ．その学んだことを事前に作成した自身の研究のパワーポイントでの発表練習で反映させ，プレゼンテーションスキルの向上に取り組んだ．特に文を区切って話す方法や日本語にはない話の中の強弱，ジェスチャーをとることが印象に残っている．どこで文を区切って強調して話すなどの聞いてもらいやすい話し方について意識した．また，ジェスチャーを取りながら発表を行った経験があまりなかったのでどのタイミングでどのようなジェスチャーをとればよいかわからずとても苦労した．

この授業では最後に自身の研究についてプレゼンテーションを 9 分間行った．プレゼンテーションの風景は図 1 に示す．このプレゼンテーションでは特に文の区切り方，ゆっくり話すこと，強調部分での話し方，ジェスチャーをつけることを意識して行った．

図 1　プレゼンテーションの風景

英語でのプレゼンテーション方法を学んだことにより，プレゼンテーションへの意識が変わった．日本語のプレゼンテーションでも利用できるスキルは多くあったのでプレゼンテーションを行うスキル全体が向上したと感じる．

4. 企業・大学訪問

8 月 21 日，28 日に RUBeC 演習で行われた企業訪問，大学訪問について報告する．

4.1 Keysight Technologies Company

企業訪問では Keysight Technologies Company に訪問した．

Keysight は 100 以上の国々との業績を誇っている計測機器メーカーである．近年ではソフトウェアにも力を入れており，高速データ通信の可視化などを行っている．Keysight は品質管理に力を入れている．見学で見た部分ではあるが例えば温度の耐性テストや衝撃試験，静電気試験，天候試験，共振試験，妨害電波の試験，湿度試験などを行っている．どの試験も高いレベルで行われていた．Keysight は計測機器の会社であるので高いレベルの品質管理こそが顧客に対しての信頼の肝になっているのだろう．また，多様な観点から品質管理を行うことにより品質が保証される範囲を広げることができている．保証範囲を広げることにより計測機器の使用環境の範囲が広がるため，契約企業が増え，多くの企業や国から業績を上げていることがわかった．特に高周波数を扱う携帯会社や軍隊に需要がある．

4.2 UCDavis

大学訪問では UCDavis に訪問した．UCDavis は，元々農業学部から始まったのでかなり広大な土地があり，龍谷大学瀬田学舎と比較するとかなりの規模の大学だった．広大であるが故に大学内の移動は自転車が主流である．学内の道路には，中央分離帯やロータリー交差点のような自転車交通を円滑に行うための工夫がなされていた．また校内には自転車修理屋などもあった．カフェテリアも数か所存在していた．このような観点から見ても移動の大変さが伺えた．

大学内の案内を終えた後に，大学内の昆虫博物館を訪問した．そこでは昆虫学について多くのことを学んだ．新種の昆虫かどうかを判定するには多くの時間を要することを学んだ．それはそれぞれの体の部位が発見済みの昆虫と異なるかどうかを一つ一つ調べるためである．また昆虫博物館には多くに標本があり，蝶々だけでも数百種類の標本があった．昆虫博物館では昆虫学の奥の深さやおもしろさを直に感じることができた．

5. おわりに

今回 RUBeC 演習Ⅰに参加してテクニカルライティングとプレゼンテーションについて学んだ．この演習に参加して英語を聞く力が身についた．ただし，話すとなると文法が曖昧になり，ぎこちなくなる部分がある．なので，今後は，語彙力，文法力を増やし，話したいことをスムーズに話せるようにしたい．

この 2 週間で学んだことを生かすためにも，国際学会での発表を実現したいと思う．